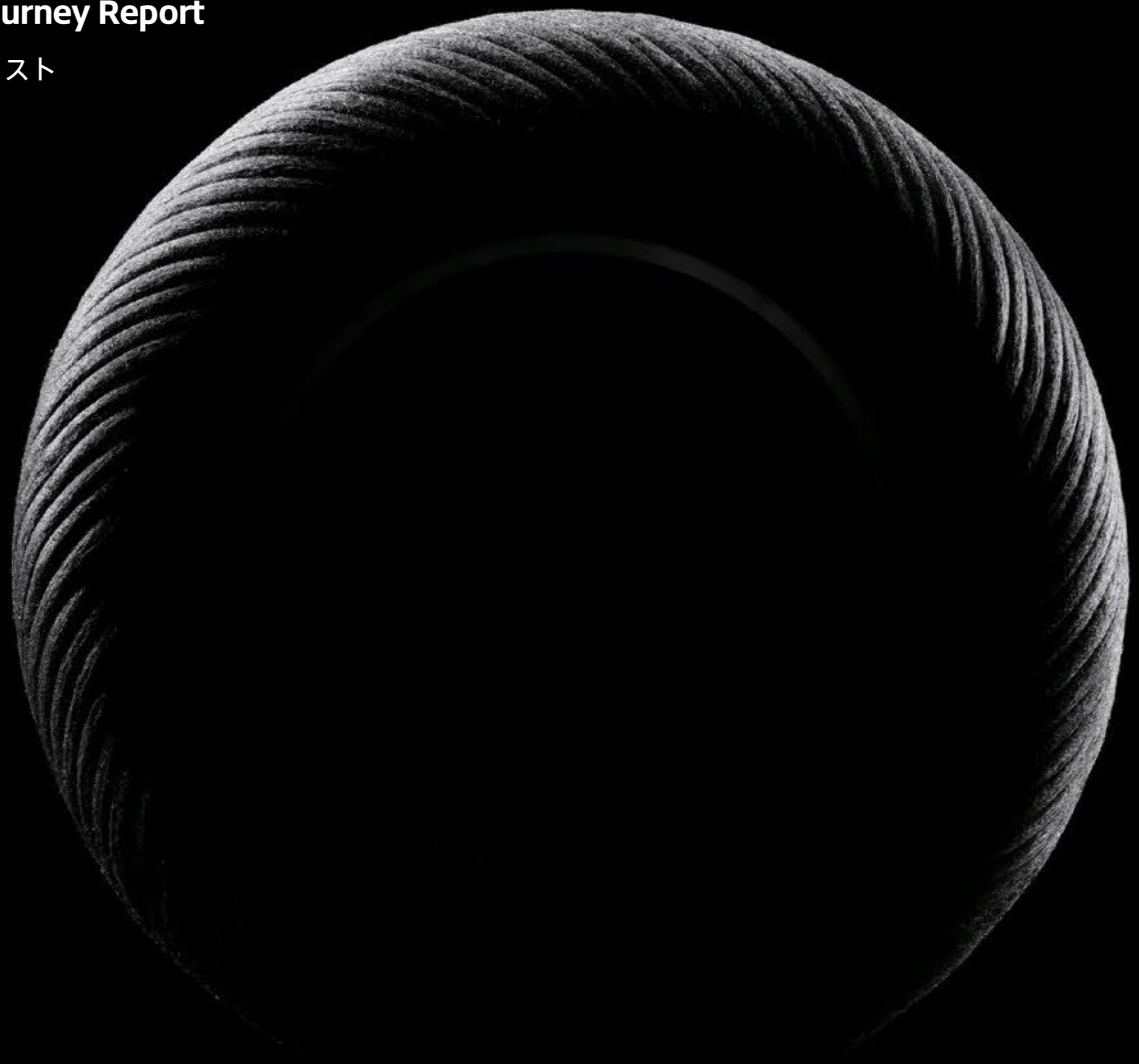
Bridgestone 3.0 Journey Report

統合報告2022 ダイジェスト



BRIDGESTONE

Solutions for your journey

未来の子供たちからの預かり物であるこの地球のために、ブリヂストンはコミットする。

ブリヂストングループは、「最高の品質で社会に貢献」を不変の使命として、2020年を「第三の創業」、Bridgestone 3.0の初年度と位置付けました。サステナビリティを経営の中核に据え、「2050年 サステナブルなソリューションカンパニーとして社会価値・顧客価値を持続的に提供している会社へ」というビジョンの実現に向けて、新たなジャーニーに歩み出しています。

現在、国際関係、世界経済、社会の仕組みなど、私たちを取り巻く環境は大転換期を迎えています。こうした激動の時代において、持続可能な社会を実現し支えることが、社会の変化、ヒト・モノの移動を常に足元から支えてきたタイヤ・ゴム業界のリーダー企業として果たすべき、当社グループの役割・責任だと考えています。

2020年・2021年の2年間を通して、中長期事業戦略構想、中期事業計画（2021-2023）に沿って、コーポレートトランスフォーメーションを推進し、事業環境の変化に対応できる「強い」ブリヂストンへ近づくことができました。2031年の創立100周年、さらにその先を見据えて、「Bridgestone E8 Commitment」を未来からの信任を得ながら経営を進める軸に据え、サステナブルなソリューションカンパニーに向けた変革を加速させていきます。

従業員・社会・パートナー・お客様と共に、ブリヂストンらしい8つの価値 (Energy, Ecology, Efficiency, Extension, Economy, Emotion, Ease, Empowerment) を創出し、持続可能な社会を支えることにコミットしていきます。



石橋　秀一

取締役
代表執行役 Global CEO

「Global CEOコミットメント」全文は「Bridgestone 3.0 Journey Report（統合報告2022）」をご覧ください。



Bridgestone E8 Commitment to Our Future

未来の子供たちからの預かり物であるこの地球のために。ブリヂストンはコミットする。

ENERGY カーボンニュートラルなモビリティ社会の実現を支えることにコミットする。

ECOLOGY 持続可能なタイヤとソリューションの普及を通じ、より良い地球環境を将来世代に引き継ぐことにコミットする。

EFFICIENCY モビリティを支え、オペレーションの生産性を最大化することにコミットする。

EXTENSION 人とモノの移動を止めず、さらにその革新を支えていくことにコミットする。

ECONOMY モビリティとオペレーションの経済価値を最大化することにコミットする。

EMOTION 心動かすモビリティ体験を支えることにコミットする。

EASE より安心で心地よいモビリティライフを支えることにコミットする。

EMPOWERMENT すべての人が自分らしい毎日を歩める社会づくりにコミットする。

本ダイジェストについて

ブリヂストングループでは、ステークホルダーの皆様に当社グループの中長期的な企業価値向上に向けた考え方や取り組みをお伝えする「Bridgestone 3.0 Journey Report（統合報告2022）」を発行しており、ダイジェスト版ではその概要をご紹介しています。
より詳細な情報は、全ページ版をご覧ください。

目次

Global CEOコミットメント 1
Bridgestone E8 Commitment 2
ブリヂストングループの概要 / ブリヂストンの挑戦の歩み 4
価値創造の全体像 5
中長期事業戦略 6
財務戦略 / Global CFOメッセージ 7
コア事業 8
成長事業 9
探索事業 10
サステナビリティビジネス構想 11
イノベーション＆DX 13
知的財産戦略 / Bridgestone Design 14
人財戦略 16
信頼の醸成 17
価値創造の基盤 18
コーポレート・ガバナンス 19

報告対象範囲*1

本ダイジェストの報告対象は、2021年1月1日から2021年12月31日までの活動実績です。
一部対象期間より前もしくは後の内容を含みます。

Webサイト・報告書のご案内

財務・非財務に関する詳細は以下の開示情報をご参照ください。

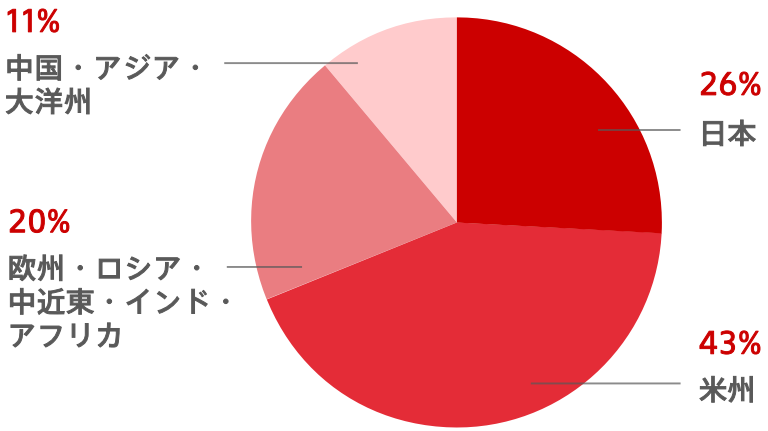
- Webサイト：サステナビリティ
- Webサイト：投資家情報
- 有価証券報告書（Webサイト：IRライブラリ）
- Webサイト：コーポレート・ガバナンス

*1 株式会社ブリヂストンは、以下の戦略的事業ユニット（SBU）を含む国内外のグループ会社・関連会社を含めたブリヂストングループの親会社です。
Bridgestone Americas, Inc（略称:BSAM）：米州事業（米国・カナダ・中南米を含む）の統括
Bridgestone Asia Pacific Pte. Ltd（略称:BSCAP）：中国・アジア・大洋州のタイヤ事業の統括
Bridgestone Europe NV/SA（略称:BSEMIA）：欧州・ロシア・中近東・インド・アフリカ地域のタイヤ事業の統括
日本（略称:BSJP）：日本タイヤ事業・化工品・多角化事業・スポーツ/サイクル事業の統括

ブリヂストングループは、約160の生産・開発拠点を持ち、150を超える国々でタイヤ事業、ソリューション事業、化工品・多角化事業などを展開しています。

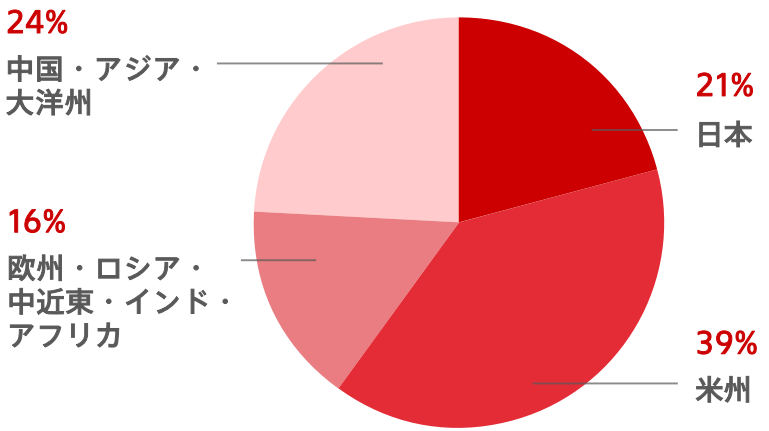
連結市場別
売上収益

3兆2,461億円



連結地域別
従業員

135,636人



ブリヂストングループは、1931年の創業以来、「最高の品質で社会に貢献」を不変の使命として、変わりゆく社会のニーズに対応し、一人ひとりの安心・安全な移動や暮らしを支え続けるために、事業を拡大・進化させてきました。

創業：Bridgestone 1.0（1931-）
- 福岡県久留米市にて創立

第二の創業：Bridgestone 2.0（1988-）
- ファイアストン社を買収

第三の創業：Bridgestone 3.0（2020-）
- 中長期事業戦略、ビジョンを策定

「ブリヂストングループの概要」と「ブリヂストンの挑戦の歩み」の全文は「Bridgestone 3.0 Journey Report（統合報告2022）」をご覧ください。

価値創造の全体像

「Bridgestone E8 Commitment」をすべての企業活動の軸として、企業として持続的に成長し、価値を提供し続けるため、サステナブルなソリューションカンパニーに向けた変革を加速させていきます。
また、ステークホルダーの皆様とより深い関係を構築し、今後のさらなる価値共創へとつなげていくために、責任ある企業として不可欠な基盤を整えていきます。



中長期事業戦略

サステナビリティを中核とした中長期事業戦略の実行

ブリヂストングループは、ビジョンの実現に向け、サステナビリティを経営の中核に据えた中長期事業戦略を実行しています。

中長期事業戦略の策定にあたっては、社会動向・モビリティ業界及びタイヤ業界の構造変化など、様々な角度から当社グループを取り巻く経営環境を分析し、当社グループへのインパクトを見極め、「変化をチャンスへ」という視点を軸に据えています。

「攻め」と「挑戦」の姿勢で、2023年までの中期事業計画に沿って稼ぐ力の再構築と戦略的成長投資を実行し、様々な環境変化に対応できる「強い」ブリヂストンへと進化していきます。

中長期事業戦略構想



当社グループの中長期事業戦略と中期事業計画（2021-2023）の詳細は「Bridgestone 3.0 Journey Report（統合報告2022）」をご覧ください。

財務戦略 / Global CFOメッセージ

ブリヂストングループの成長へ向けて、ポートフォリオ経営を実現させる財務戦略基盤の再構築を進めています。

- 2021年1月に個別投資案件を管理するグローバルコントローラー機能を設置
- Global CEOをリーダーとするM&Aステアリングコミッティを設置
- Joint Global COOをリーダーとする設備投資のコミッティを設置
- 2023年に経営の最重要指標であるROIC（Return On Invested Capital）10%レベルの達成を目指す
- 社内カーボンプライシング活用による、サステナビリティを加味した投資判断の強化

サステナブルファイナンス

- BSAMは、当社グループのサステナビリティに向けた取り組みの進捗・成果に応じて変動するサステナビリティ・リンク・ローンを米国タイヤ業界で初めて導入
- BSEMIAは、EcoVadis社の評価を取得したサプライヤーに対して財務的なインセンティブを与える仕組みを導入、世界初の取り組みとして表彰

「財務戦略」と「Global CFOメッセージ」の全文は「Bridgestone 3.0 Journey Report（統合報告2022）」をご覧ください。

Global CFOメッセージ



吉松　加雄

執行役 専務

Global CFO

ROICを最重要経営指標として、資本コストやポートフォリオの最適化を意識した経営を進めています。ROICツリーを活用した浸透活動の推進や投資の適切な精査・評価の実施などにより、2021年のROICは、前年比3.9ポイント改善し9.0%となりました。中期事業計画（2021-2023）に掲げる7,000億円の戦略リソース (2021年-2023年) 投入の実行に向けて、引き続き、「攻め」の姿勢でグローバル全体最適による投資を継続していきます。

コア事業

EV時代の新たなプレミアム

ブリヂストングループの事業戦略のすべてのベースとなるコア事業（タイヤ事業）では、プレミアムビジネス戦略の強化と経費・コスト構造改革による稼ぐ力の再構築をバリューチェーン全体でビジネスの質の向上を推進しています。

コア事業では、**EV時代の新たなプレミアムとして「ENLITEN」**を拡大していきます。これまで、EVへの装着に適した革新的なタイヤ基盤技術として「ENLITEN」の開発を強化し、欧州を起点に新車用タイヤへの装着を進めてきました。2022年からは技術・商品・ビジネスモデルとして価値を拡大した「ENLITENビジネス戦略」として、構築を進めていきます。



新興EVメーカー、Fisker社との共創
2021年8月、米国の新興自動車メーカーであるFisker（フィスカー）社と、電動SUV「Fisker Ocean（フィスカー オーシャン）」向けのタイヤを開発・納入するパートナー契約を締結しました。「Fisker Ocean」には、「ENLITEN」を搭載した特別仕様タイヤ「POTENZA SPORT（ポテンザ スポーツ）」が新車装着され、2023年に欧州で発売される予定です。



当社グループのコア事業の詳細は「Bridgestone 3.0 Journey Report（統合報告2022）」をご覧ください。

成長事業

ソリューション事業のグローバル拡大

成長事業としてブリヂストングループが掲げるソリューション事業は、お客様がタイヤを「使う」段階において価値を増幅し、コア事業であるタイヤ事業と連動することで、当社グループが提供する価値を最大化するものです。

環境変化に強くレジリアントな事業として今後もソリューション事業の拡大を推進していきます。

M&A、戦略的パートナーシップ、エコシステムの形成などを含め、戦略的成長投資を実行し、強固なソリューション事業基盤を構築していきます。

主なソリューション事業の拡大進捗

	ブリヂストンの主なソリューション	欧州	日本	豪州	米州
タイヤセントリックソリューション	リトレッドソリューション（タイヤ＋リトレッド＋メンテナンス）		TPP※1		bandag
	鉱山ソリューション　（豪州・チリの鉱山を中心に日本をCoE※2に展開）		41鉱山に展開		
	航空機ソリューション（グローバルのエアラインへ日本をCoEに展開）		SUP/CPL※3		
小売・サービス	サブスクリプション（タイヤ＋メンテナンス＋サービスパッケージ）	mobox			RESOLV
	モバイルバンサービス			LUBE MOBILE	Firestone DIRECT
	小売サービス（タイヤ周りのサービス＋メンテナンス）	FIRSTSTOP	タイヤ館	select	Firestone
	小売ファイナンス				Credit Card
モビリティソリューション	フリート（運送）ソリューション	webfleet solutions		webfleet solutions	azuga
	デジタルデータサービス	webfleet solutions			

※1 TPP：トータルパッケージプラン, ※2 CoE：Center of Excellence, ※3 SUP：Single Unit Price / CPL：Cost Per Landing

当社グループの成長事業の詳細は「Bridgestone 3.0 Journey Report（統合報告2022）」をご覧ください。

探索事業

次期中期事業計画（2024-2026）期間での小規模事業化に向けて

ブリヂストングループは、将来に向けて持続的に成長するために、事業ポートフォリオに探索事業を加え、当社グループのコアコンピタンスの活きる新しい事業領域での技術、ビジネスモデルの探索を進めています。

リサイクル事業

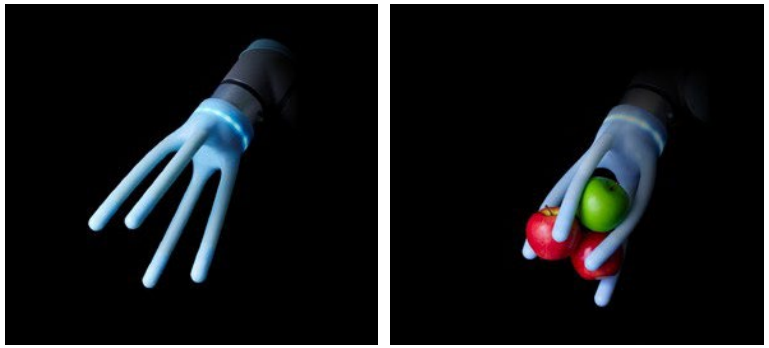
当社グループでは、お客様が使い終わったタイヤを資源として捉え、タイヤのリサイクル活動を通じて、タイヤの価値が常に循環し続ける社会の実現を目指しています。当社グループでは、使用済タイヤを新たな再生資源として原材料に戻す技術を確立し、高度に循環利用するエコシステムを構築することに取り組んでいます。



タイヤがタイヤに生まれ変わる未来に向けた活動「EVERTIRE INITIATIVE」

ソフトロボティクス事業

当社グループのコアコンピタンスである「ゴムを極める」や「接地を極める」のノウハウ・技術をソフトロボティクスに活用することで、特に先進国での少子高齢化を背景とする労働力不足への対応や作業の自動化といった社会・顧客課題に応えることができると考えています。



“いい感じ”にモノをつまむ・つかむ・包むソフトロボットハンド

グアユール事業

グアユールは異なる植物種や気候帯へと天然ゴムの供給源を多様化させるソリューションとして、大きな可能性を秘めています。当社グループは、2012年にグアユールの研究活動を開始して以来、様々な知見を蓄積してきました。オープンイノベーションや共創を通じて、天然ゴムの持続可能な生産に向けた取り組みを推進していきます。



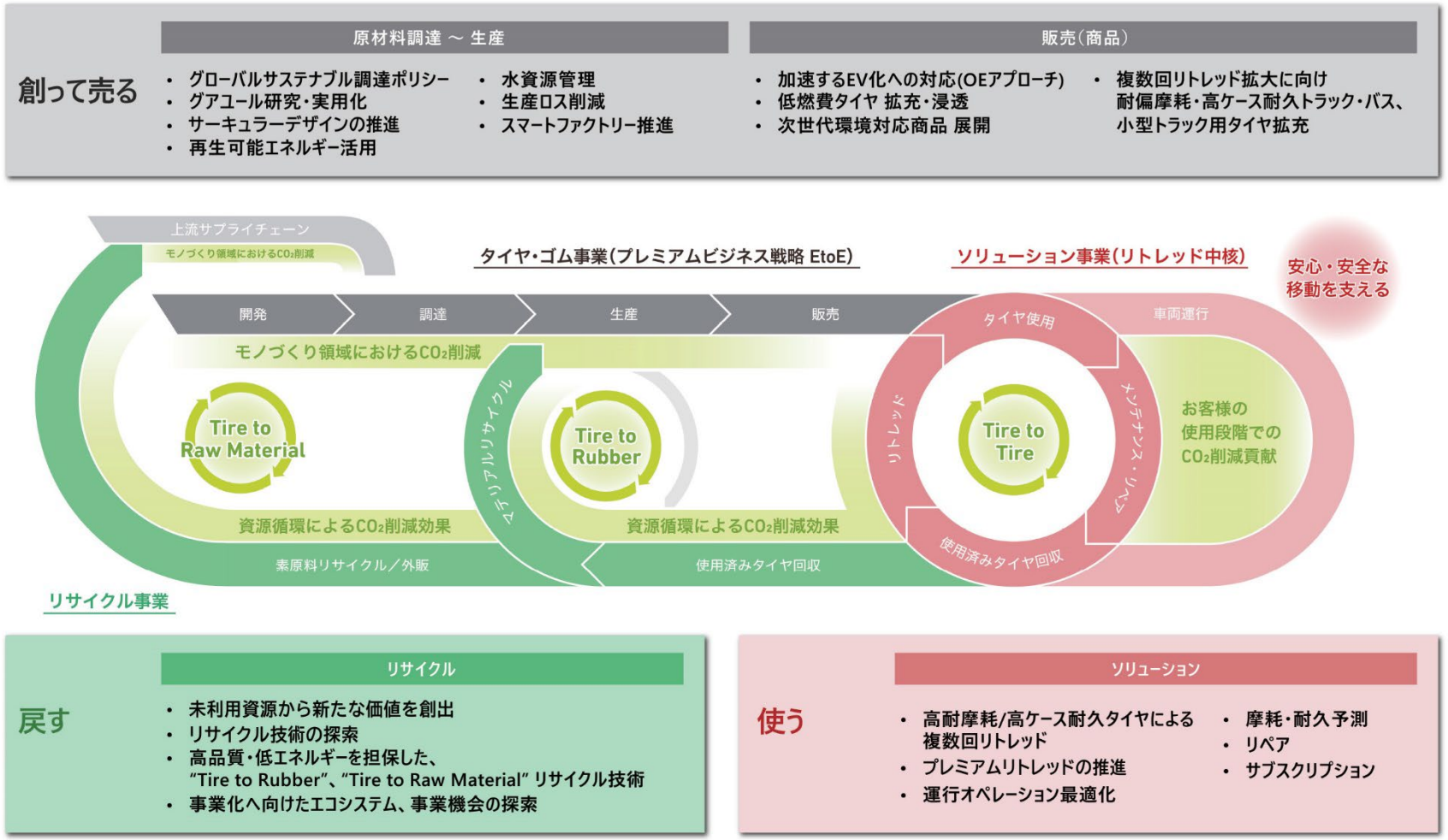
米国・アリゾナ州のグアユール農園

当社グループの探索事業の詳細は「Bridgestone 3.0 Journey Report（統合報告2022）」をご覧ください。

サステナビリティビジネス構想

サステナビリティビジネス構想の進捗

ブリヂストングループは、「断トツ商品」を「創って売る」「使う」「戻す」といった、当社グループのバリューチェーン全体でカーボンニュートラル化、サーキュラーエコノミーの実現に向けて取り組んでいます。また、それらの取り組みをビジネスモデルと連動させた「サステナビリティビジネス構想」の実現に向け活動を加速しています。



当社グループのサステナビリティビジネス構想の詳細は「Bridgestone 3.0 Journey Report（統合報告2022）」をご覧ください。

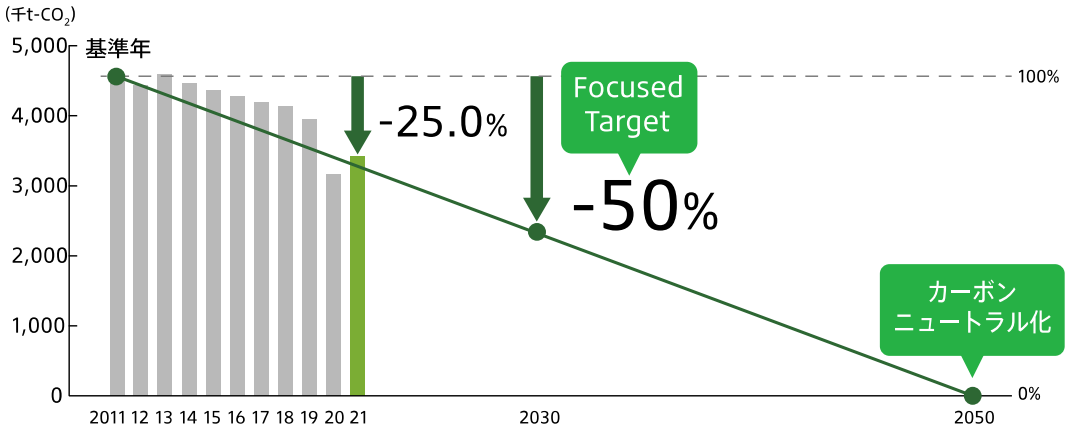
サステナビリティビジネス構想

カーボンニュートラル化に向けて

ブリヂストングループは2050年のカーボンニュートラル化に向け、「CO_2削減貢献の拡大」と「CO_2排出量の最小化」の両輪で活動を進めています。

- **CO_2削減貢献の拡大**：「2030年までにソリューションの提供により、商品・サービスのライフサイクル、バリューチェーン全体を通じて、当社グループの生産活動により排出するCO_2排出量の5倍以上のCO_2削減に貢献していくこと[*1]」を目標として設定しています。
- **CO_2排出量の最小化**：2030年までに当社グループが排出するCO_2の総量（Scope 1、2）[*2]を2011年比50%削減することを目標として設定しています。

生産段階のCO_2排出量（Scope 1, 2）削減目標

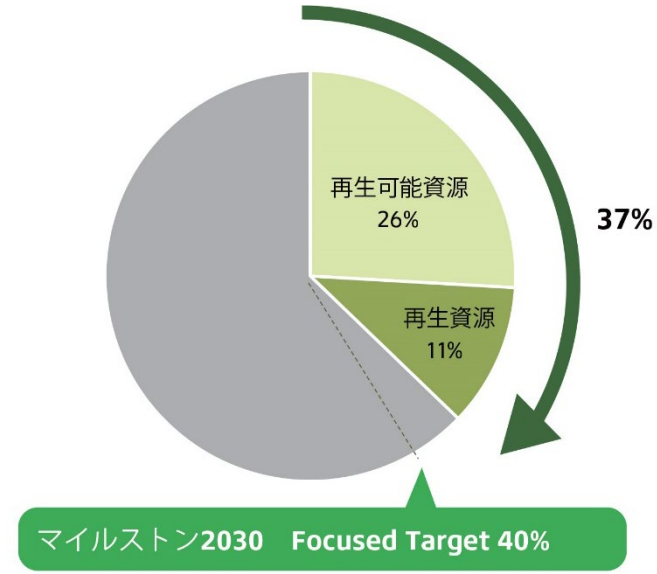


サーキュラーエコノミーへの貢献

サーキュラーエコノミーは単に環境問題を緩和するだけでなく、資源をより賢く、持続的に利用することでタイヤの価値を向上させ、競争優位獲得につながるビジネスモデルへの変革の機会であると捉えています。

サーキュラーエコノミーの実現に向けて、「2030年までに再生資源または再生可能資源に由来する原材料の比率[*3]を40％に向上する」という目標を掲げ、取り組みを進めています。

再生資源または再生可能資源に由来する原材料の比率（2021年）



[*1] 基準年：2020年
[*2] Scope 1は企業が直接排出するCO_2（自社工場のボイラーなどからのCO_2排出）、Scope 2はエネルギー起源間接排出（電力など他社から供給され、自社で消費したエネルギーに伴うCO_2排出）、Scope 3はライフサイクルにおける原材料調達、流通、顧客の使用と廃棄・リサイクル段階のCO_2排出量などを指しています。
[*3] リトレッド用の台タイヤ（トレッドゴム以外の部材）を含むタイヤの総原材料重量に占める比率

イノベーション＆DX

中長期事業戦略を支えるイノベーション

ブリヂストングループは、2050年にもサステナブルなソリューションカンパニーとして、社会価値・顧客価値を持続的に提供している会社であり続けるため、イノベーションで競争優位の源泉を強化していきます。

「Bridgestone Innovation Park」を活用し、社会・パートナー・お客様に当社グループのDNAやビジョンに共感いただくことから始め、共議・共研へと関係を深め、さらに新たな価値を共に創造する共創へと進化させ、イノベーションを加速させていきます。

Bridgestone Innovation Park（東京・小平）



ブリヂストン流DXの推進

ブリヂストン流DXは、「より大きなデータで、より早く、より容易に、より正確に」をテーマとしています。

当社グループが培ってきた強い「リアル」としての、扱いが非常に難しい素材である「ゴムを極める」技術や、タイヤに関する知見と匠の技に、「デジタル」を組み合わせたシミュレーション技術やデジタルフリートソリューションを通して、素材・商品開発から、社会・お客様へのソリューションの提供まで、バリューチェーン全体でのイノベーションを加速させることを目指し、DXを推進しています。

デジタル人財の育成強化

当社グループは、DXの推進やソリューション事業の拡大を担う、高度デジタル人財の育成に特に力を入れています。M&Aを経て当社グループの仲間となったWebfleet SolutionsやAzugaとの人財交流も促進しています。また、社外との連携を通じた育成、採用を強化しています。

当社グループの目指すDXの実現に向けた組織能力強化の一環として、デジタル人財の育成を今後も加速していきます。

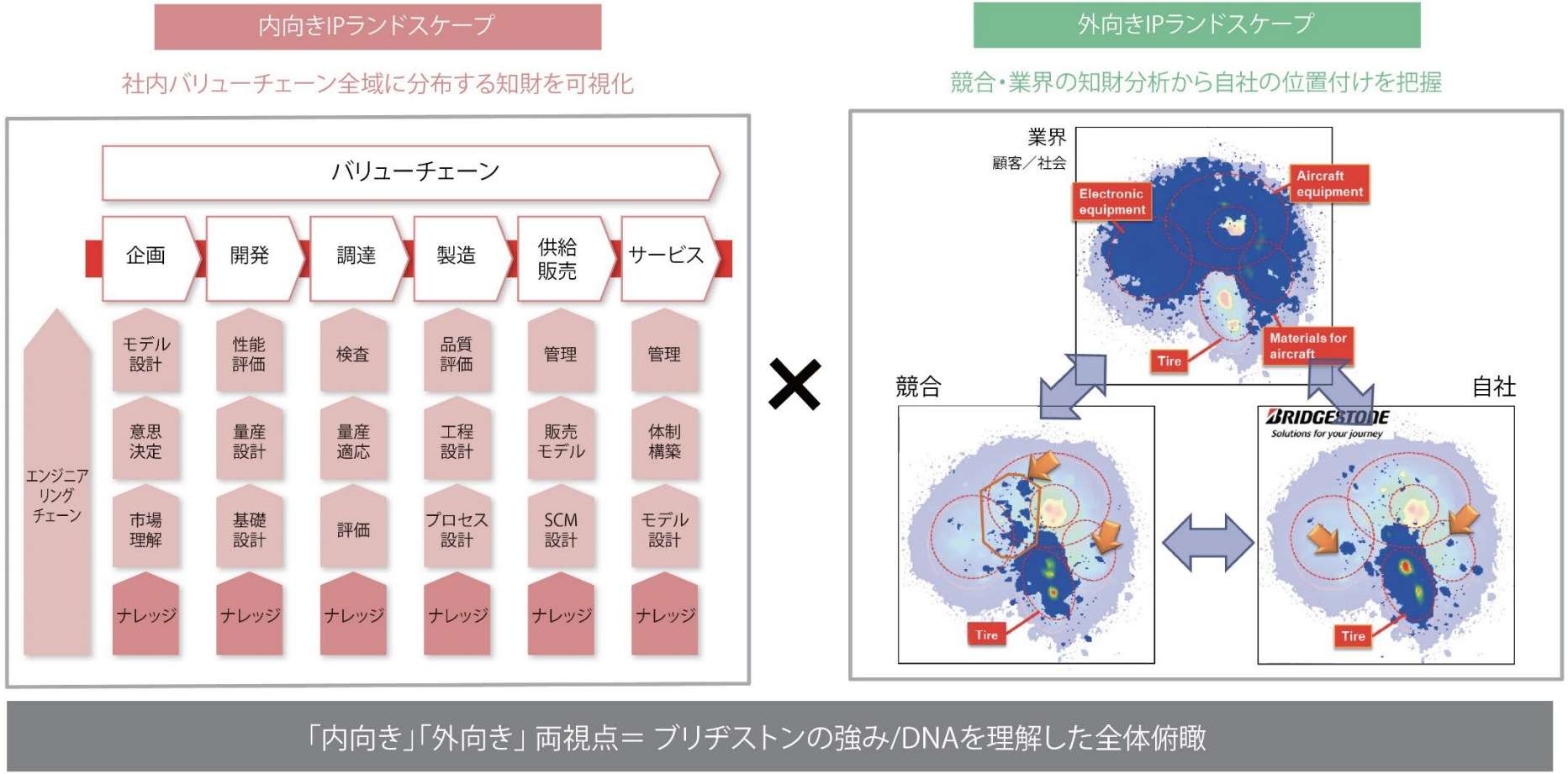
当社グループのイノベーション＆DXの詳細は「Bridgestone 3.0 Journey Report（統合報告2022）」をご覧ください。

知的財産戦略

ブリヂストングループでは、知的財産（以下、知財）や無形資産を競争力の源泉となる重要な経営資源の一つと捉えています。知財・無形資産の利活用を進め、当社グループのビジョンの実現に貢献していきます。

知財を可視化して管理/活用する IPランドスケープ

「内向きIPランドスケープ」と「外向きIPランドスケープ」の両視点から、当社グループが保有する知財の強み・弱みを俯瞰しています。



当社グループの知的財産戦略の詳細は「Bridgestone 3.0 Journey Report（統合報告2022）」をご覧ください。

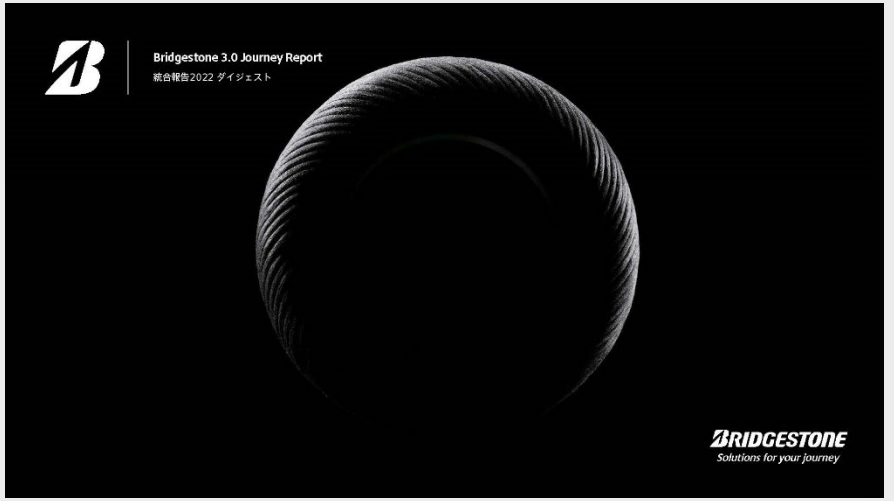
Bridgestone Design

ブリヂストンにおいてデザインは、創業、第二の創業の中で重要な役割を果たし、当社グループの企業活動を牽引してきました。

第三の創業、Bridgestone 3.0においては「円の美学」を追求し、円・循環を様々なデザイン、ビジネスモデルに取り入れることで、サステナブルなソリューションカンパニーへの変革を体現することにフォーカスしています。



企画展「円の美学」



本ダイジェストの表紙は、チームジャパンで挑んでいる月面探査ミッションを足元から支える当社の月面探査車用タイヤを側面から撮影し、「円の美学」を追求した”Bridgestone Design”を代表する作品です。

Bridgestone Designの詳細な取り組みは「Bridgestone 3.0 Journey Report（統合報告2022）」をご覧ください。

人財戦略

ブリヂストンの成長と個人成長を同時に実現

ブリヂストングループは、事業の持続的な成長にとって不可欠な人財を重視し、多様な人財の活躍こそが「Bridgestone E8 Commitment」に表される価値の創出につながるものと確信しています。人財戦略を中長期事業戦略に適切に整合・連動させながら、戦略遂行を通じて個々の人財価値を最大限に引き出していきます。

日本
- 自律的なキャリア開発や自己成長を促進する仕組みを整備
- 次世代グローバル経営人財育成プログラム「Bridgestone Next 100」を推進

BSAM
- 従業員が上司からのフィードバックを継続的に受けられるよう、新たなパフォーマンスマネジメントフレームワーク「Accelerating My Performance」を導入

BSEMIA
- 従業員の成長をサポートする360度評価やメンター制度を導入
- 月次パルスサーベイを実施

BSCAP
- 従業員一人当たり年間最低40時間の研修を実施するというKPIを導入
- 毎年実施するキャリアディベロップメント&ディスカッション制度を利用できる従業員を拡大

DE&I

ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン（DE&I）の尊重は当社グループの「グローバル人権方針」の重要な要素であり、グループ全体を通じて様々な形で実践しています。

例えば、BSAMでは「ワークプレイス」「ワークフォース」「マーケットプレイス」という3つの重点領域からなるDE&Iの戦略を掲げ、各領域において、インクルーシブな職場環境の提供、リーダー・従業員への教育、公平な機会の創出を目指しています。BSAMの詳細なDE&Iの取り組みは、BSAMの「DE&Iアニュアルレポート」でご覧いただけます。



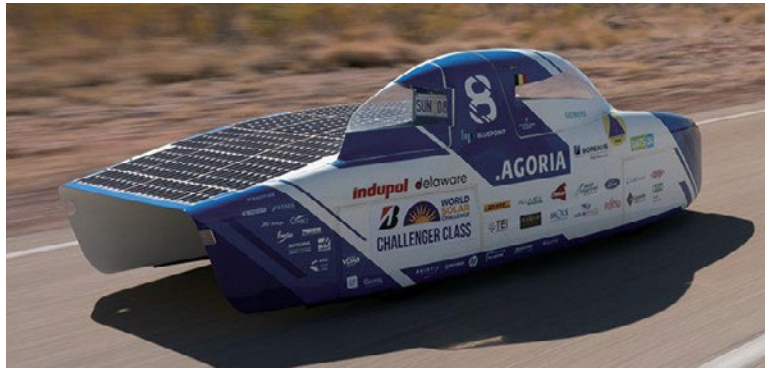
当社グループの各地域における人財育成プログラムや人事制度について、詳しくは「Bridgestone 3.0 Journey Report（統合報告2022）」をご覧ください。

価値共創への招待～信頼の醸成

「Bridgestone E8 Commitment」は、ブリヂストングループのみで実現できるものではなく、社会・パートナー・お客様といった多くのステークホルダーの皆様と一緒に価値を創出していくことが不可欠です。この共創の時代において、より多くの方に共感していただくためにも、ブリヂストンは信頼に足る企業/ブランドであり続けなければならないと考えています。

モータースポーツ

当社グループでは、モータースポーツ文化を支えていくことをタイヤメーカーの原点だと捉えています。また、サステナビリティの視点でモータースポーツを捉え、社会課題解決へ向けた取り組みにもつなげていきたいと考えています。



世界最高峰のソーラーカーレース「Bridgestone World Solar Challenge」

自然との共生

当社グループは、事業活動が与える生物多様性への影響を最小化しながら、生物多様性の復元などの貢献活動を行うことによって、生態系全体での損失を相殺する「生物多様性ノーネットロス」に向けた取り組みを推進しています。



「エコピアの森 久留米」でのイベントの様子

地域との共生

当社グループは各地域で抱える課題に対し、パートナー、お客様、従業員と共に、解決に向けた様々な取り組みを進めています。これらの長期的な取り組みに加え、自然災害の発生時など、緊急性の高い支援が必要な場合は、迅速に地域社会を支援する活動を行っています。



交通安全に関するインタラクティブな授業（ポーランド、ポズナン）

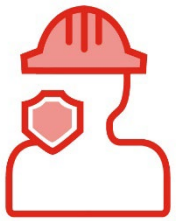
「モータースポーツ」「自然との共生」「地域との共生」の詳細は「Bridgestone 3.0 Journey Report（統合報告2022）」をご覧ください。

価値創造の基盤

社会やステークホルダーの皆様からの期待と役割を理解し、積極的に行動に移すことでさらなる価値創造の基盤を整えていきます。
それを支えるのが、責任ある企業として欠かせない6つの基盤領域とガバナンスです。

目標・KPIや取り組みなどの詳細は、以下の基盤領域のリンクよりご覧いただけます。

労働安全・衛生



人権・労働慣行



コンプライアンス・公正な競争



BCP（事業継続計画）・リスクマネジメント



調達



品質・お客様価値



コーポレート・ガバナンス

ブリヂストンは、内部統制のより一層の強化によるガバナンス体制の向上に継続的に取り組み、サステナブルなソリューションカンパニーへの進化を実現していきます。

コーポレート・ガバナンスの変遷

当社は、2010年の独立社外取締役の導入、2013年・2014年の取締役会諮問委員会の設置、2016年の指名委員会等設置会社への移行など、継続的にコーポレート・ガバナンス体制の強化を図っています。
その一環として、2021年には定款変更を行い、取締役会長の制度を廃止し、独立社外取締役を取締役会の議長に選定しています。

更なるガバナンス向上に向け議論を継続

年度	監　督		経営 ・ 執行
2022		Bridgestone E8 Commitment	「Bridgestone E8 Commitment」制定 Joint Global COO 2名体制導入
2021	取締役会長を廃止 取締役会議長を独立社外取締役から選定		中期事業計画 策定 「CEO」「COO」の呼称を「Global CEO」「Global COO」に変更
2020	取締役会の監督機能の強化 取締役会長とCEOを分離		中長期事業戦略 策定
2018	取締役会権限の再整理 （権限移譲）		グローバルの調達方針・人権方針、Code of Conduct制定 オリンピック・パラリンピックとスポーツ関連事業を統合
2017		グローバルCSR体系	中期経営計画策定プロセス見直し グローバルCSR体系「Our Way to Serve」制定
2016	指名委員会等設置会社へ移行		鉱山・農機ソリューションカンパニー創設
		品質宣言	品質宣言 策定
2014	コンプライアンス委員会新設		SBU体制整備：BSCAP 中国 + アジア・大洋州 BSEMIA 欧州 + 中近東アフリカ、トルコ、ロシア +（2020年～）インド
2013	取締役会　諮問委員会の新設 （ガバナンス・指名・報酬）		Global EXCO導入（Committee含む）
2012		安全宣言	安全宣言 リファイン CEO / COO 執行2トップ体制導入
		環境宣言	環境宣言 リファイン
2011		企業理念	企業理念 リファイン
2010	独立社外取締役の導入		米州事業2トップ体制導入、委員会制度開始
2006			SBU組織体制（以降も段階的に整備）

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスの体制

ブリヂストンは、2016年3月に指名委員会等設置会社に移行しています。

- 独立社外取締役8名を含む12名の取締役
- 指名委員会、監査委員会、報酬委員会
- 取締役会による執行役及び取締役の監督

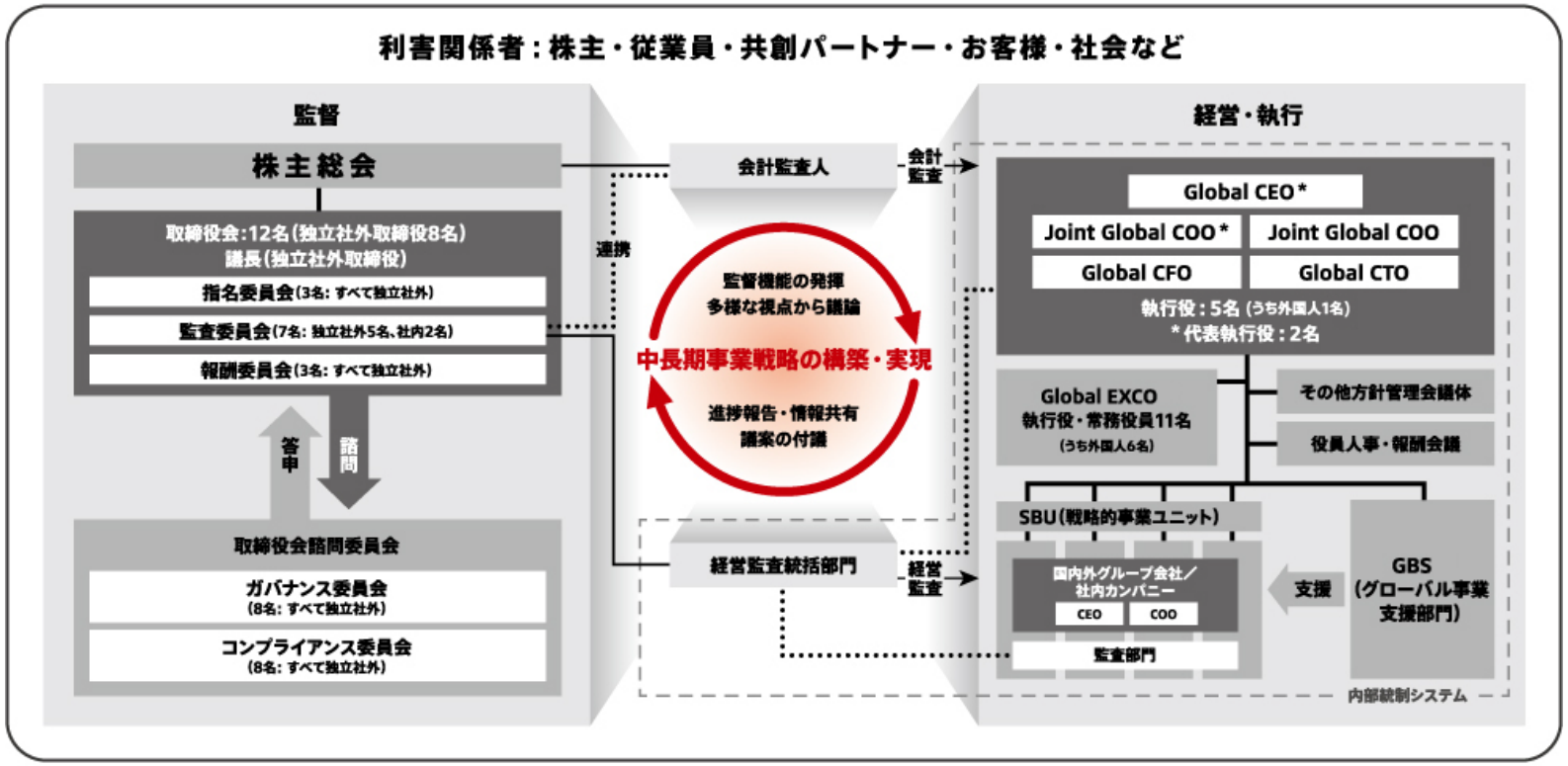
さらに、企業統治の透明性をより高めるため以下体制を整備しています。

- 取締役会の諮問機関としてガバナンス委員会及びコンプライアンス委員会を設置
- 取締役会及び監査委員会において独立社外取締役が過半数
- 指名委員会及び報酬委員会ならびに諮問委員会のすべてが独立社外取締役のみで構成

執行部門については、2名の代表執行役を含む5名の執行役が、Global CEO、Joint Global COO（2名）、Global CFO、Global CTOとして、取締役会から委任を受けた業務の執行を決定しその実行責任を担う体制を採っています。

当社グループのコーポレート・ガバナンスの詳細は「Bridgestone 3.0 Journey Report（統合報告2022）」をご覧ください。

コーポレート・ガバナンス体制図



Joint Global COO：グローバルな事業オペレーション責任者。主に日本・アジアを管轄する1名、主に米州・欧州を管轄する1名の2名体制
Global CTO：Global Chief Technology Officer
※2022年5月現在

Bridgestone 3.0 Journey Report

統合報告2022 ダイジェスト

株式会社ブリヂストン

Global CEO室
IR部
グローバルサステナビリティ部門

東京都中央区京橋3丁目1番1号 〒104-8340
TEL:03-6836-3240 FAX:03-6836-3271
https://www.bridgestone.co.jp/contact/form_rd_01.html

www.bridgestone.co.jp

2022年9月発行